

表Ⅱ-1-14 毛布の乾燥とクリーニングの実施数

		2月	3月	4月	5月	6月	計
毛布の乾燥	枚数	7,474	14,932	17,265	617	1,324	41,612
	実施か所数	30	59	117	3	9	218
	乾燥車の延べ出動台数	37	77	113	5	9	241
毛布の洗濯	枚数	-	869	2,390	6,540	1,391	11,190
	実施か所数	-	5	38	52	34	129

2. 仮設住宅の衛生対策

仮設住宅は、6月末現在で171か所、20,364戸建設されており、特に西区（35%）、北区（20%）、東灘区（18%）に集中している。建設地は、海上埋立地、宅地造成地、公園、グラウンド等で、水はけの悪い場所、樹木が多い場所、下水道が無い場所等さまざまであり、多種多様の衛生問題が発生している。例えば、水はけの悪いところでは、床下に水が溜まって蚊の発生源となったり、水が腐って異臭が発散していたり、樹木に囲まれているところでは、蚊、ムカデ、ヤスデ、ナメクジ、毛虫の発生、或いは公園、グラウンドではアリやハトの害も起こっているほか、犬猫などペットの問題など生活が始まるにつれ、様々な事象が表面化した。このため衛生対策もその立地条件を踏まえた対応が求められたが、居住者各自で解決できることも多いことから、各保健所では、住民の自治活動による解決がなされるよう衛生啓発活動を進めている。

しかし、高齢者や障害者等を優先入居させた集合仮設住宅などでは、苦情や相談に対し、戸別訪問等個々に対応している。

個々の問題処理については現場調査、薬剤散布、巡回指導等の対応をしているものの、夏場に向かって苦情、要望も増えており、保健所間の相互協力体制及び仮設住宅の建築担当の災害対策本部民生部や維持管理にあたっている神戸市住宅供給公社との連絡調整など、全市的な衛生対策が必要になってきた。



仮設住宅床下に薬剤散布（須磨区）

なお、入居者に対しては、ネズミ、衛生害虫などに関するリーフレットを作成、配布し、これらに関する知識や対処法を指導し、生活周辺の身近な環境衛生については自らも対処していただくよう啓発に努めている。

以上、仮設住宅の衛生対策を進めるうえで次の事項が問題となった。

- ① 仮設住宅の立地条件などによる害虫等の発生
- ② 高齢の入居者等、個人での対処が困難な人への対応

また課題としてはつぎの事項があげられる